中村元記念館 Nakamura Hajime Memorial Hall नाकामुरा हाजीमे स्मारक सभागृह

東方学院松江校

The Eastern Academy at Matsue

受講の手引き

2019年度

東方学院

理念

〈人間〉の回復をめざし
財団法人東方研究会を母胎として
ここに『東方学院』を開設しました。
『東方学院』は本学院の理想に賛同する学者個人と
そのもとで学ぼうとする学徒とによって構成される
共同体としてのグループの連合です。
〈個人指導の場の共同体〉とでもいうべきものをめざしています。

The Toho Gakuin (The Eastern Academy) was established
with the hope of contributing to the restoration of human integrity.
This Academy is a cooperative body of various academic communities
of scholars and students wishing to learn,
in which scholars provide personal guidance to the students.
Above all, our aim is to have this Academy be the rallying point
for students and scholars.

東方学院松江校の運営は特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所が行います。

目　次

「慈しみ」 3
ごあいさつ 4
東方学院とは 4
東方学院松江校　2019年度講義一覧 6
中村元記念館文化講座一覧 7
東方学院松江校　2019年度講義 8
　東方学院松江校　定期講義　講義内容 8
　東方学院松江校　集中講義　講義内容 16
中村元記念館文化講座 24
2019年度　年間スケジュール 26
各講座へのお申込みのご案内 28
受講申込書 29
中村元記念館ボランティアサポーター募集 31
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集 31
中村元記念館友の会入会のご案内 32
アクセス 33

表紙絵：
中村元先生とガンガー（パトナ）
―行きゆきて　流れながれて
やがてガンガーサーガルに至る―
画：石川 響

慈しみ

一切の生きとし生けるものは
幸福であれ　安穏であれ　安楽であれ
一切の生きとし生けるものは　幸であれ
何びとも他人を欺いてはならない
たといどこにあっても
他人を軽んじてはならない
互いに他人に苦痛を与える
ことを望んではならない
この慈しみの心づかいを
しっかりと　たもて

中村元訳　ブッダのことば

中村　元
(1912～1999)

インド哲学・仏教学の世界的権威であり、比較思想学の開拓者。1500点を超える膨大な著作・論文を発表し、我が国における思想研究の分野を大きく発展させた。従来のセクショナリズムにとらわれない壮大な世界思想史を構築し、その業績は海外でも高く評価されている。

大正元年島根県松江市に生まれ、東京帝国大学でインド哲学を学ぶ。同大学名誉教授。昭和45年財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を設立。昭和48年東方学院を設立し、学院長に就任。昭和49年紫綬褒章、昭和52年文化勲章受章。平成元年松江市名誉市民。

主な著書に『広説佛教語大辞典』（東京書籍）、『初期ヴェーダーンタ哲学史』（岩波書店）、『東洋人の思惟方法』シリーズ、『インド史』（春秋社）、他多数。

ごあいさつ

東方学院長
前田 專學
（公益財団法人中村元東方研究所理事長・中村元記念館館長）

平成24年10月10日、私の長年の夢でありました恩師中村元先生の記念館が、大根島の中心に開設され、平成25年４月には、この記念館に東方学院松江校が、東京の東方学院本校と緊密な連携のもとに、開校されましたことは私の最大の喜びです。なぜなら大根とは、ものの根本中の根本、すなわち中村元の元を意味し、将来中海・宍道湖圏域の連携・発展の根本となり、元となり、中村元記念館と松江校がその象徴となることを願っているからです。

中村先生ご自身の書斎、毎日お使いになった34,000冊のご蔵書、その他数々のご遺品とともに、先生はこよなく愛された生まれ故郷の松江に帰ってこられました。先生は、一人でも多くの方々がこの記念館に集い、先生が開拓された学問の道を歩み、東洋の思想と文化の精華を吸収され、さらにそれを広く発信し、世界の平和と繁栄に貢献されることを願っておられるにちがいありません。

東方学院には報酬の有無を度外視して教えたいという意欲的な先生方にお集まり頂きました。当学院に入学するのに、年齢も性別も学歴も職業も問いません。唯一必須の入学条件は勉強に対する強い意欲です。それ故に東方学院では受講生とは言わず、研究会員と申します。一人でも多くの研究会員のお出でをお待ちしております。

東方学院とは

老若男女を問わず、誰もが東洋思想について学べる場所——それが東方学院です。

東方学院は、インド哲学・仏教学の世界的権威である故中村元博士によって、1973年に財団法人東方研究会（現 公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として設立されました。

「真に教えたい一人と、真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という中村博士の理念に基づき、学問のセクショナリズムにとらわれない現代の寺子屋として、東京本校・関西教室・中部教室で、多くの人々が東洋思想について教え、学び、日々研鑽を深めています。

そして平成25年４月、中村博士の出身地、島根県松江市の中村元記念館に東方学院松江校が開校されました。

「心の時代」といわれる現代社会、多くの人々が「どのように生きるべきか」という問いを抱えています。中村博士は生涯、インド哲学や仏教をはじめとした東洋の思想を通じて、私たちの「生きる道」を説き続けました。

学問とは真理の探究であり、その扉はいつでも、誰にでも開かれています。

あなたも東方学院松江校で、奥深い魅力にあふれた東洋の智慧を学んでみませんか？

◆ 東方学院の特徴

・真に学を究め、道を求めたい人々の学院です。学歴・年齢・職業・国籍・性別などを問いません。
・専門家のあいだの縄ばり意識の無い学院です。だれでも自由に学問を延ばすことができます。
・講師と研究会員との人間的連絡が緊密です。講師は懇切に指導をいたします。同学の人々とながく協同することが可能です。
・各講師は奉仕的に指導をいたしますから、若干の分野においては、日本におけるどの大学よりもはるかに詳しい講義がなされています。
・従来の大学ではなされていないテーマで斬新な講義や実習指導がなされています。
・学問には熱意が最も大切です。したがって熱意のある方々はいつでも入学できます。
・東方学院の講義を受講される方を本学院では「研究会員」と称します。

◆ 東方学院設立の経緯と意義

東方学院は、創立者中村元の東京大学退官とともに、昭和45年11月に文部省より財団設立の認可を受けた財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として、昭和48年に設立されました。

その大きな動機は、当時、大学に吹き荒れた学園紛争にともない、学術的には減退傾向にあり、また精神的な砂漠化のさなかにあって、学術的精神的な拠点となりうる、小さくともしっかりした学院をつくることにありました。そして学問の自由を制約することになる縄張り意識の強いセクショナリズムを廃して、真理探究を目的とする学問本来の姿を回復するためでありました。

大学の外につくることでセクショナリズムを脱し、またカルチャー・センターとも異なる一種の私塾、つまり現代の「寺子屋」として出発しました。真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ ― これが創立者・中村元の信念であり、まさに東方学院の原点といえます。

幸いにも、このような考えに同調し、協力を申し出る人々が集まり、学院は開講されました。狭いビルの一角を間借りし手弁当を持ち寄って、文字どおりの「寺子屋」が始まったのです。

しかし、財団の基盤を強固にし、学院を発展させていくためには、しっかりとした学問研究の場所を確保する必要がありました。そこで、創立者の私財をもとに、財団設立に協力して下さった篤志家の方々が、昭和57年「財団法人東方研究会強化募金運動」を開始されました。一高時代の同窓生（「昭８文乙クラス会」のメンバー）である中村敏夫弁護士をはじめとして、同じく星埜保雄、宇佐見鉄雄、倉知善一、新井正明氏らが発起人となり、その資金集めから場所の確保にいたるまで実に並々ならぬご尽力を下さいました。そのおかげで、諸方面から多数の賛同者･協力者を得ることができ、現在のこの場所を入手するにいたりました。東方学院は、これらの人々によって築かれた土台の上に、今日成り立っております。

以来、当学院は、優れた数多くの講師を迎え、多くの方々の善意と学問への熱意によって支えられ発展して参りました。

今後も創立者の遺志を継承し、初心を忘れることなく、ますます発展していきますことを心より念願しております。

財団法人東方研究会
名誉理事長 **中村洛子**
（1919～2010）

※財団法人東方研究会は平成24年7月2日付けで、公益財団法人中村元東方研究所へと名称を変更しました。

東方学院松江校 2019年度講義一覧

定期講義

講義題目	講師名	回数	日程・時間	開講日	受講料	早割料金[注1]	詳細ページ
前期：仏教は何を説いているのでしょうか	三桐慈海	14	毎週木曜日 13:30～15:00	4/18	17,800円	16,800円	8
後期：仏教経典解説	三桐慈海	10	毎週木曜日 13:30～15:00	10/3	13,000円	12,000円	8
中村元 『ブッダの生涯』講読	清水谷善曉	6	第３週木曜日 15:30～17:00	4/18	8,200円	7,200円	9
『無量寿経』を読む	齊藤舜健	12	第１,３週金曜日 13:30～15:00	4/19	15,400円	14,400円	9
“医療”と『大丈夫論』～「いのち」の現場から考える“大丈夫”という物語～ （「生命倫理学」と「日本仏教（学）」の協働）	岡　宏	6	第３週土曜日 10:30～12:00	4/20	8,200円	7,200円	10
ラフカディオ・ハーンの異界と宗教観	横山純子	6	第３週日曜日 10:30～12:00	4/21	8,200円	7,200円	11
歴史を彩った人びと 東アジア篇―そのⅠ―	藤島建樹	12	土曜日 10:30～12:00	4/27	15,400円	14,400円	12
キリスト教世界の歴史と思想	笠原愛古	6	土曜日 13:30～15:00	4/27	8,200円	7,200円	13
出雲学概論	藤岡大拙	6	第２週水曜日 10:30～12:00	5/8	8,200円	7,200円	14
仏像鑑賞講座 ―美しさの秘密	的野克之	6	第２週土曜日 10:30～12:00	5/11	8,200円	7,200円	14
宮沢賢治の俳句を読む	島田隆輔	6	第２週火曜日 13:30～15:00	5/14	8,200円	7,200円	15
能海寛のチベット仏教探検への道	岡﨑秀紀	6	第４週土曜日[注2] 13:30～15:00	10/26	8,200円	7,200円	15

注1：開講日の１週間前までに受講料をご入金いただくと、早割料金が適用されます。
注2：岡﨑秀紀先生の講義は、12月21日のみ第３土曜日開講です。
講義日は変更になる場合があります。休講、日程変更などの情報は、中村元記念館ホームページでご確認ください。
http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/

集中講義

講義題目	講師名	回数	日程・時間	受講料	早割料金[注1]	詳細ページ
インド思想における自己観を考える ―自分を孤立させないために	丸井　浩	4	4/14（日）13:30～15:00 15:20～16:50 4/15（月）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	16
仏教漢文講読： 『維摩経』をよむ（2）	山口弘江	2	5/19（日）13:30～15:00 15:20～16:50	3,400円	2,400円	17
仏教漢文講読： 『維摩経』をよむ（3）	山口弘江	2	9/29（日）13:30～15:00 15:20～16:50	3,400円	2,400円	17
やさしい英語で『歎異抄』を読む	田中ケネス	4	7/6（土）13:30～15:00 15:20～16:50 7/7（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	18
ひたむきな帰依、狂おしい帰依 ―インドの宗教詩を味わう―	山下博司	4	7/27（土）13:30～15:00 15:20～16:50 7/28（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	19
日本の近代仏教の幕開け	蓑輪 顕量	4	8/3（土）13:30～15:00 15:20～16:50 8/4（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	19
仏教とイスラム教 その遠くて近い宗教関係	保坂俊司	4	9/4（水）13:30～15:00 15:20～16:50 9/5（木）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	20
人の「たま」を祀る神社の系譜 ―天満宮・東照宮から靖国神社まで	加藤みち子	4	9/21（土）13:30～15:00 15:20～16:50 9/22（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	21
仏教聖典へのいざない	釈　悟震	4	10/20（日）13:30～15:00 15:20～16:50 10/21（月）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	22
菩薩考	渡辺章悟	4	2020年 3/26（木）13:30～15:00 15:20～16:50 3/27（金）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	23

中村元記念館文化講座一覧

講義題目	講師名	回数	日程・時間	開講日	受講料	詳細ページ
観想行入門　「心を知ろう」	清水谷善圭	6	第４週木曜日 10:30～12:00	4/25	9,000円	24
アジアの風土と民族音楽 ～音楽で辿るシルクロード仏跡の旅	瀬古康雄	6	第４週土曜日 13:30～15:00	5/25	9,000円	24
中国地方の神楽と儀式の世界	中野秋鹿	2	13:30～15:00 15:20～16:50	9/1	3,000円	25

東方学院松江校 2019年度講義

東方学院松江校　定期講義　講義内容

1　前期：仏教は何を説いているのでしょうか　〈14回〉

三桐慈海（みつぎり じかい）
大谷大学名誉教授
真宗大谷派妙覚寺住職

［日　　時］毎週木曜日　13:30～15:00
(4/18、4/25、5/9、5/16、5/23、5/30、6/6、6/13、6/20、6/27、7/4、7/11、7/18、7/25)
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］17,800円
(早割 16,800円　※４月11日までに受講料を納入された場合)

「仏教」とは仏陀（悟った人）釈尊（釈迦族の尊者）が説いた教ということで、またキリスト教徒やイスラム教徒などと対応させて、仏教徒とも使われています。彼らの教徒はその聖典を読誦し、その意義を理解しています。それでは仏教徒としてはどのようでしょうか。

日本の仏教は各宗派に分かれて、それぞれの宗派の聖典を所持しています。それは釈尊の悟りを自らに明らかにしようとして工夫を重ねてきた祖師とすべき人に、師事しようとして集まった人々によって、宗派が形成されたからです。従ってどの宗派の教説も釈尊の教えが基盤となっているのです。

釈尊の教えとその思想的展開は“仏教とは何か”ということで『仏教入門』の書物が多く著されています。しかし仏教入門の書を読むための基礎知識が必要であると思われます。そしてその基礎知識こそが仏教徒である人々に理解されなければならないものと考えます。

ここでは仏教は真実の帰依處であるとして、如何に生きるかを教えているものと考え、その基礎を共に学んでいきたいと思います。

2　後期：仏教経典解説　〈10回〉

三桐慈海（みつぎり じかい）
大谷大学名誉教授
真宗大谷派妙覚寺住職

［日　　時］毎週木曜日　13:30～15:00
(10/3、10/10、10/17、10/24、10/31、11/7、11/14、11/21、11/28、12/5)
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］13,000円
(早割 12,000円　※９月26日までに受講料を納入された場合)

佛教の典籍はどのようなものか、大乗経典である般若経や法華経などは何を説いているのかを解説します。また経典を選んで実際の経文を解読します。

3　中村元『ブッダの生涯』講読　〈6回〉

清水谷善暁（しみずたにぜんぎょう）
特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所理事
公益財団法人中村元東方研究所非常勤研究員

［日　　時］第３木曜日　15:30～17:00
（4/18、5/16、6/20、7/18、10/17、11/21）
［テキスト］購入が必要：中村元『ブッダの生涯』（岩波書店）
［参 考 書］中村元『ブッダ入門』（春秋社）
中村元『ゴータマ・ブッダ　上・中・下〈普及版〉』（春秋社）
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※４月11日までに受講料を納入された場合）

昭和60（1985）年４月から９月にかけて、NHKラジオ第二放送で中村元先生によって行われた全26回にわたる連続講義「こころをよむ／仏典」の活字化された「仏典をよむ」シリーズが、平成29（2017）年に岩波現代文庫から新たに出版されました。これにより、本シリーズの入手がより容易になりました。

本講義では、その「仏典をよむ」シリーズの第１巻に当たる『ブッダの生涯』を講読していきます。本年度は、第２回ブッダのことば―『スッタニパータ』（2）の途中から再開いたします。

なお、講義初回は前年度読み進めたところまでの解説も行いますので、今年度から受講希望される方もご安心ください。

なお、研究会員（受講者）には『ブッダの生涯』（岩波現代文庫）を購入していただく必要があります。

4　『無量寿経』を読む　〈12回〉

齊藤舜健（さいとうしゅんけん）
浄土宗総合研究所
主任研究員

［日　　時］第１・３金曜日　13:30～15:00
（4/19、5/17、6/7、6/21、7/5、7/19、10/4、10/18、11/1、11/15、12/6、12/20）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］浄土宗総合研究所編『現代語訳浄土三部経』（浄土宗出版）2011年
中村元他『浄土三部経』（岩波文庫）1990年
［受 講 料］15,400円
（早割 14,400円　※４月12日までに受講料を納入された場合）

我が国では浄土系宗派の信者が全仏教徒の約半数を占め、それらの浄土系宗派の多くは法然（1133-1212）から始まる。法然がその教えの根拠としたのが『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の三経典で、浄土三部経と呼ばれる。そのうち『無量寿経』には、阿弥陀仏が仏となった経緯、阿弥陀仏によって救われる理由などが述べられている。これは中国の善導（613-681）や法然の理解を通すことで、わが国の浄土教・阿弥陀仏信仰の根元となった。信徒数の多さとあいまって、この方面でのわが国の精神文化への影響は尽大なものといえよう。一方で、インドの初期大乗仏教以来の菩薩思想、現在他方の諸仏の思想に基づく経典でもある。

『無量寿経』は漢訳されて以後、中国において多くの註釈研究があり、わが国でも伝来以後様々に理解されてきた。特に法然以後は浄土系諸宗派の宗義学の立場からの研究の積み重ねがあり、内容の理解はもちろん、語句や構文の理解に到るまで、宗義学的な裏づけ、後付の解釈が与えられている。その影響は極めて大きく、それらの理解を離れての『無量寿経』読解は困難な点がある。そこで本講座では、インド仏教と法然の浄土教という二つの方向から『無量寿経』を読み解く。

31年度は30年度からの継続で、阿弥陀仏の寿命無量についての条（第十三願成就）から読み始める。すでに読了した阿弥陀仏の本願建立を前提とするので、初回はそこまでの内容を解説する。

なお、本年度は月２回（計12回）の開講とするのでご留意頂きたい。

5　“医療”と『大丈夫論』～「いのち」の現場から考える“大丈夫”という物語～（「生命倫理学」と「日本仏教（学）」の協働）　〈6回〉

岡　宏
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
大阪府立大学地域保健学域「生命倫理学」講座講師

［日　　時］第３土曜日　10:30～12:00
（4/20、5/18、6/15、7/20、11/16、12/21）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※４月13日までに受講料を納入された場合）

２世紀後期～３世紀、龍樹（ナーガールジュナ）の高弟で、『百論』の撰者としても知られている、初期中観派の提婆（アーリヤデーヴァ）が撰述したと伝承されている『大丈夫論』というテキストがあります。このテキストの梵本は現存せず、北涼・道泰①の訳出した漢訳本②のみが現存しています。

“丈夫”とは、「堅牢なこと」「人間の男子（ここから展開して、今日では人間）」の意味です。さらに、“大丈夫”は、この“丈夫”に“大”を冠むりした熟語で、その用例を大別すれば、以下の２通りがあります。

①　“大”以下の誇大表現で、歴史的・一般的用例として多くの事例を見ます。

②　人為超越的他者の行為（性）としての用例です。例えば、鎌倉時代の浄土教者・親鸞は、阿弥陀佛のはたらきについて“大行”“大信”という表現を用いて、如来の行為（性）を伝えるために使用してきた事例があります。因みに、親鸞が正依とした浄土経典の一つ魏・康僧鎧訳『無量寿経』で、康僧鎧は、佛十号の一つに「調御丈夫」という語を訳出しています。これは「大丈夫」に通じるものです。

ところで、『大丈夫論』では、“大丈夫”という言葉に込められた最も重要な意味を「悲心」、すなわち「慈悲の心」であると論じています。この「慈悲の心」の中心である「慈悲」の果たすべき役割について、中村元博士は、その著書『慈悲』（平楽寺書店）の中で、宗教の壁を超え、諸宗教に通底する宗教の本質である（趣意）と論じておられます。仮に、「宗教」を「人がより良く生きる拠りどころ」と言い換えれば、「慈悲の心」とは、すべての人びとがよりよく生き抜くうえで、拠りどころとする根幹を貫く本質であると言い換えることが出来ます。つまり、“大丈夫”という語りが、すべての人びとがより良く生き抜くうえで、拠りどころとする根幹を貫く本質であり、中村博士が著したように宗教の壁を超え、さらには諸宗教に通底する本質であるならば、“大丈夫”という語りは、民族・地域の壁を超え、時間的・空間的に世界をつなぐ大切な“思惟”としての使命と可能性につながるのではないでしょうか。

漢訳『大丈夫論』は、「大丈夫」にとって極めて重要なものは、慈悲の心である「悲心」であると説いています。つまり、衆多の生きものから「苦しみを抜くこと」というのです。

聖路加国際病院の小児科医・細谷亮太さんは「“苦しみを抜くことこそ”、医者たるものが、まず心がけるべきことで③」「“大丈夫。”は、ぴったりの言葉」だと言われています。さらに、細谷医師は、小児がんによる痛みに苦しむ子どもの臨床で、数時間後に命終を迎える病態の患児に寄り添いながら「マミちゃん、どれくらい頑張ればよいかは、神様が決めてくれるよ。マミちゃんが耐えることのできる苦しみしか、神様はくれないから。心配しなくていいよ。“大丈夫。”もう我慢できないと思った時には、きっと楽になるからね。④」と語りかけます。これは明らかに辞書的用例とは異なる使い方です。全体何が“大丈夫”なのかという「問い」が起こります。しかし、細谷医師は「“大丈夫”も、お祈りですね」といい、今も「いのち」の現場で「大丈夫」と語りつづけています。

車輪の両輪のようにEBM（Evidence-Based-Medicine）に加え、NBM（Narrative-Based-Medicine）の必要が説かれる現代に、「大丈夫」の含意を探求し、「いのち」の物語を大切にする医療について再考することが求められていることは明らかです。この求めに応えることを視野に、『大丈夫論』を中心に細谷亮太医師の臨床像を考察の対象にして、これからの医療と生命倫理と仏教（宗教）の協働可能性について、みなさんと共に思索をすすめてゆく講座です。

講義計画

第１回；『大丈夫論』解題
第２回；『大丈夫論』エッセンシャル
第３回；細谷亮太医師の臨床像①
第４回；細谷亮太医師の臨床像②
第５回；１人称・２人称の“大丈夫”
第６回；“大丈夫”からの“大丈夫”

①北涼:397年５月～439年９月（４世紀末から５世紀前期）、道泰に関する事績については詳らかに知ることは出来ないと羽渓了諦は論じている。
②『大丈夫論』（『大正大蔵経』30、pp256-268）、『国訳一切経』（中観部３、pp48-53）。
③「今年の一年の計に」、細谷亮太著、『暮らしの手帳』第56号通巻420号、pp99、2012年、株式会社暮らしの手帳社。
④『大丈夫。―小児科医・細谷亮太のコトバ―』、伊勢真一監督作品、2011年、カラー、１時間25分、第85回2011年度キネマ旬報文化映画ベスト・テン１位受賞、このドキュメンタリー映画冒頭の代表的シーンより引用。

6　ラフカディオ・ハーンの異界と宗教観　〈6回〉

よこやまじゅんこ
横山 純 子
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員

［日　　時］第３日曜日　10:30～12:00
（4/21、5/19、6/16、7/21、10/20、11/17）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※４月14日までに受講料を納入された場合）

一昨年度はラフカディオ・ハーン（Lafcadio Hearn, 1850-1904）の『日本瞥見記』の中の来日初期の作品に焦点をあてて、その表現について考察し、昨年度は来日する前のアメリカ時代の作品である1889年出版の『チタ』（Chita）、1890年出版の『ユーマ』（Youma）の二つの小説を取り上げ、ハーンの作家としての思いとその作品について考察した。

これまで作品に焦点をあてていたが、今年度から作品に見られるハーンの思想的面を考察していき、ハーンの世界観に分け入りたいと思う。今回はまずその手始めとしてハーンの作品に現れた異界についての考え方と宗教観について考えてみたいと思う。

ハーンは両親の離婚後、ハーンは大叔母のブレナンに引き取られ、厳しいカトリック教育を受けることになる。そして1863年にはイギリスのダラム郊外のカトリック系の寄宿舎学校であった聖カスバート校に入学する。このようにハーンの初期の人生ではキリスト教との関わりが見られる。またハーンは後に「生命がどこから来るのか」（“Whence Life?”）「どこへ行くのか」（“Whither does it go?”）「なぜ存在し、苦悩するのか」（“Why does it exist and suffer?”）という究極な問題について考えるようになり、最初はその答えをハーバート・スペンサー（Herbert Spencer, 1820-1903）の社会進化論に求めるが、仏教に求めるようになる。こうしたハーンの人生と作品を通してハーンの宗教観の変化を考察したいと思う。

また、ハーンは「小説における超自然的なものの価値」（“The Value of the Supernatural in Fiction”）の中で「我々自身が霊であり、全く不可思議な存在なのである」（“we are ghosts of ourselves—and utterly incomprehensible.”）（On Art, Literature and Philosophy 116）と述べており、私達自身の中に霊が存在し、我々が冥界と共生するものであると捉えている。それ故、異界である冥界を知ることは自分自身を知ることに繋がるのである。ハーンは今日でも大事な視点を示唆してくれている。この講座を通してハーンの多様な面に興味を持っていただければ幸いである。

7　歴史を彩った人びと　東アジア篇 ― そのⅠ ―　〈12回〉

ふじしまたてき
藤島建樹
大谷大学名誉教授
真宗大谷派圓浄寺住職

［日　　時］土曜日　10:30～12:00
(4/27、5/11、5/25、6/8、6/22、7/13、10/5、10/26、11/9、11/23、12/7、12/14)
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］15,400円
(早割 14,400円　※４月20日までに受講料を納入された場合)

中国を中心とした東アジアの歴史的展開を学びながら５ヶ年が過ぎました。古代から近代までようやく辿り着きましたが、よく考えてみると、4000年に及ぶ歴史の大河の流れにゆだね、時に棹さしつつ概観しただけだったのではないかとの想いが強くなるばかりです。

さて新年度はこの反省も踏まえて視点を定めたいと想います。

歴史の舞台には、様々な人々が登場し歴史的展開や変化をもたらします。その「人」をより深く鋭く焦点を当ててみたいと考えます。「正史」に代表される漢文史料には、時代の人を取り挙げた「列伝」の部分があり、個人の伝記が記されております。これによってその人物の存在と一生を知ることができます。さらに歴史的事件や状況は「本紀」の部分により事の推移を掌握することが可能です。これらを合せていわゆる「通史」として掲載されて歴史事実と語っています。

しかし、すこし注意して読めば、当然のことながら史料それぞれに疑問点に当たることが少なくありません。ことに人物評価に関しては、事の流れの中で埋没している面が多く見られます。個人の「伝」にこだわると前に進み難くなることも事実ですが史料を正確に把握するという歴史的実証を大切に考えなければなりません。今年度はすこし「列伝」部分にこだわって見ていければと思います。

さらに、最近東アジア圏の仏教史の研究成果がいささか低調なように思います。自分の怠慢を自省する意味も込めて、後期には今までの「アジア仏教史」的論考にも注意・再読し、新たな展開を考えられればとも思っています。

8　キリスト教世界の歴史と思想　〈6回〉

かさはらなるひさ
笠原愛古
中央大学政策文化総合研究所客員研究員
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
中村元記念館学芸員

［日　　時］土曜日　13:30～15:00
（4/27、5/25、6/15、6/29、7/20、8/10）
［テキスト］資料配布
［参 考 書］講義内で紹介します。
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※４月20日までに受講料を納入された場合）

今年度はかねてより要望のあったキリスト教世界の歴史と思想に焦点を当ててみたいと思います。

初年度の講義【「北欧人」あるいはヴァイキングの思惟方法】は、近年の北欧中世史研究の動向を確認しつつ、日本における「北欧」像受容史の一例として、中村博士が『比較思想の先駆者たち』のなかで取り上げられた小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の講演録「古代北欧の生活倫理」などを読んでいきました。

昨年度の【歴史学入門～歴史的ヨーロッパの風景】は、『文学に現れたる我が国民思想の研究』で知られる思想史家、津田左右吉の「仏教史家に一言す」、「歴史の「学」に於ける人の回復」を導入として、いわゆるヨーロッパ世界が歴史家によってどのように描かれてきたのか、歴史家の「歴史を見る視点」を念頭におきながら、古代の歴史叙述からはじめ歴史（学）の転換点となった歴史家の講義録を中心に見ていきました。

今年度について説明いたします。キリスト教はしばしば東洋の思想・宗教と比較して論じられます。確かに中世ヨーロッパ世界においては、キリスト教は国家・政治と不可分の関係にありました。しかしながら、その思想の源流を古代地中海世界、小アジアの一隅に生をうけたイエスに求めるならば、後に世界宗教となるキリスト教も「東方」世界に起源があり、その意味においてはキリスト教を西洋の思想と同一視することはできません。したがって時間的にはおよそイエスの時代から古代末期まで、空間的には小アジアを含むキリスト教世界を中心として見ていきたいと思います。

中村博士は『インドと西洋の思想交流』に収められた「西洋中世の宗教と仏教」のなかで、「教団の構成においてカトリック教団と仏教教団とはあまりにもよく類似している」、「キリスト教は一神教であり、仏教はそうでないというのは教義学者たちのいうことであって、崇拝様式はあまりにも似ている」とその類似性にたびたび言及されました。この講義では実際に原典にあたりながら、キリスト教で何が説かれてきたのかを見ていきましょう。

（授業計画）※現時点でのおおまかな内容です。

① 聖書学と史学のあいだ
② イエスの思想
③ キリスト教の成立
④ キリスト教ローマ帝国
⑤ 正当と異端
⑥ キリスト教の拡大―古代末期から中世へ

9　出雲学概論　〈6回〉

ふじおかだいせつ
藤岡大拙
荒神谷博物館館長
松江歴史館館長

［日　　時］第２水曜日　10:30～12:00
（5/8、6/12、7/10、10/9、11/13、12/11）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］藤岡大拙『出雲人』（ハーベスト出版）2014年
『出雲国風土記』（加藤義成校注）（今井書店）2015年
藤岡大拙『神々と歩く出雲神話』（ＮＰＯ法人出雲学研究所）2010年
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月１日までに受講料を納入された場合）

古代出雲を中心に、出雲神話、神祇信仰、神社の実態、神仏習合過程等を述べ、続いて大和政権の支配下に入ってからの出雲が、どのような歴史を辿るかを、伊勢と出雲の二極の相関関係の中で考え、現在の出雲のよって来る歴史的因子を探りたい。

10　仏像鑑賞講座 ―美しさの秘密　〈6回〉

まと の かつゆき
的野克之
島根県立古代出雲歴史博物館参与

［日　　時］第２土曜日　10:30～12:00
（5/11、6/8、7/13、10/12、11/9、12/14）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］山本勉『日本仏像史講義』（平凡社）2015年
清水眞澄『仏像の顔』（岩波書店）2013年
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月４日までに受講料を納入された場合）

仏像は祈りの対象です。信仰の対象である仏像がなぜ美しいのでしょうか。たとえ美しくなくとも信仰の対象となることは出来たはずです。しかし、どの時代の仏像も美しく、我々を魅了してやみません。

仏師は仏像を制作する際に様々な工夫を凝らし、仏像を美しく仕上げました。この講座ではその秘密を様々な面から探ってゆきます。

まずは①技法です。日本の仏像で最も数が多いのが木彫です。その木彫の技法は大きく一木造と寄木造に分けられ、美しさも異なります。次に②素材です。日本の仏像の素材は確かに木が多いのですが、土や石、金属も使われました。素材毎の美しさが探究されました。次に③形です。単に坐ったり立ったりしているだけでなく、片足を前に出したり、腰をひねったり、前屈みになったり、後ろを見返るなど様々な美しいポーズの仏像が存在します。次に④地域です。仏像の多くは関西で作られましたが、関東、東北、出雲では関西には見られない個性的な像が造られました。関西とは異なる美しさがそこにはあります。次に⑤種類です。仏像には如来、菩薩、明王、天という種類がありますが、それぞれの美しさを見てゆきます。そして最後に⑥仏師です。平安時代の仏師定朝と鎌倉時代の仏師運慶・快慶の美しさの秘密を探ります。

美しさの秘密　①技法（一木造・寄木造・乾漆造）
美しさの秘密　②素材（土・石・木・金属）
美しさの秘密　③形（坐像・立像・見返り像）
美しさの秘密　④地域（関東・東北・出雲）
美しさの秘密　⑤種類（如来・菩薩・明王・天）
美しさの秘密　⑥仏師（定朝・運慶・快慶）

11　宮沢賢治の俳句を読む　〈6回〉

しま だ たかすけ
島田隆輔
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
博士（文学）

［日　　時］第２火曜日　13:30～15:00
（5/14、6/11、7/9、10/8、11/12、12/10）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月７日までに受講料を納入された場合）

詩や童話の宮沢賢治は、学生時代にはかなりの数の短歌を詠んでいるのですが、晩年にわずかながら俳句をつくっていたことを知っていますか。たとえば「灯に立ちて菊の林のすさまじさ」など。

今年度は〈賢治自伝〉詩譜の試みをお休みして、その俳句を読んでみようかとおもいます。

詩にくらべると、難解な表現はほとんどありませんが、五・七・五というかぎられた詩形ゆえ、独特な技法や省略があって、理解するのに読み手の想像力がより必要になりそうです。私自身、覚束なさもありますので、俳句にしたしんできた方の参加もあれば、よろこびます。

12　能海寛のチベット仏教探検への道　〈6回〉

おかざきひで き
岡﨑秀紀
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
学芸員
能海寛研究会会長

［日　　時］第４土曜日　13:30～15:00
（10/26、11/23、12/21、1/25、2/22、3/28）
［テキスト］資料配布
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※10月19日までに受講料を納入された場合）

2016年度定期講座は「チベット仏教を目指した東西の先駆者たち」と題して、チベット仏教求法僧・能海寛を中心に東西の３人のチベット学の先人の業績を学びました。2017・18年度は能海の主著である『世界に於ける仏教徒』（1896）と格闘してきました。輪講形式で音読し内容理解に努めつつ、誰にでも読んでもらえる、やさしい現代送りかな遣い文を得ることを目標に取り組んで来ました。全文は用語解説とともに完成間近となっております。

2019年度の講座では、能海が10年以上かけて追い求めた、チベット仏教探検への歴史を、残された記録に基づいてたどってみたいと考えます。

能海のチベット探検の決意に関しては、以下のような記録、文書が残されています。

１）東温譲のインド留学送別会にて公言（明治21年）
　蚊野僊次郎「活眼」（明治19年10月23日）
　南條文雄著「能海寛君略伝」、『能海寛遺稿』（大正６年）　※「君（注・能海のこと）の西蔵探検の志は已に此時（注・京都普通教校時代）より発起せり」とある。
２）「西蔵国探検の必要」、『天則』第６編第１号（明治26年７月17日）
３）「西蔵国探検の必要」、『反省雑誌』第８年第７号（明治26年７月31日）
４）『世界に於ける佛教徒』（明治26年11月18日発行）
５）「口代」（明治27年２月27日）
６）「予と西蔵」（明治30年５月９日記）
７）　能海寛「履歴書」（自筆）と「入蔵予定」
参考）「ダライラマ13世あてへの親書」（M31.10.15付）

中村元博士は、『世界に於ける佛教徒』に関して「チベット探検の必要性を著書において世に訴えたというのは明治26年であるから、社会に訴えたという点で」、また『比較思想の先駆者たち』（1982）で「日本人としては最初にチベット探検計画を立て、（中略）チベットの文物を日本に最も早く伝えた人という意味で」、〈最初のチベット探検家〉と呼ぶことができるであろうと述べています。

能海の「チベットへの道」は、明治21年のチベット探検公言にはじまります。明治31年日本出国の直前まで能海が書き残した記録を読み、チベット探検への強いあこがれ・心情、具体的な準備の経過を、資料を通して読み取ります。講座を通して、能海のチベット仏教への強いあこがれ、語学の学習と仏教研究、周到な探検準備など、チベット探検行のすべての過程を知ることができると考えています。

東方学院松江校　集中講義　講義内容

13　インド思想における自己観を考える ―自分を孤立させないために　〈4コマ〉

まるい　ひろし
丸井　浩
武蔵野大学特任教授
東京大学名誉教授
公益財団法人中村元東方研究所　常務理事

［日　　時］４月14日（日）13:30～15:00，15:20～16:50
　　４月15日（月）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］5,800円
　　（早割 4,800円　※４月７日までに受講料を納入された場合）

インド哲学および仏教において、「自分とは何か？」という問いは最も重要な問題といってもよいでしょう。そしてこの問いは、私たちが生きる現代においても、さまざまな意味で重要となっています。西洋近代以降、宗教や政治権力の縛りから解放された「自我」が理性の力をたよりとして科学と技術を発展させ、人類社会は未曾有の経済的発展をとげてきました。しかしいつしかその肝心の「自我」が、機械（最近ではＡＩ）に監視され、また巨大機構に組み込まれて人間らしさ（自分らしさ）を喪失した「自己疎外」に追い込まれていき、この状況はますます深刻になっているのではないでしょうか。自己喪失は生きがいの喪失となり、私たちはいったい何のために生きているのか、この肝心な問いさえ忘れ去られようとしているかのようです。

このような問題意識のもとで、今回の集中講義は、インド思想のおける自己観を辿り、そこに見られる自己探求の知恵を手がかりとして、現代の私たちが「自己回復」をするためのヒントを探れたらと思います。

ブッダ以前に成立した最古のインド哲学であるウパニシャッド思想の核心は「梵我一如」（ぼんがいちにょ）と言われます。ウパニシャッドの哲人たちは、自分の本質、我がいのち（アートマン、我）は、宇宙・万物の始原・本質であるブラフマン（梵）と一体だという境地を拓きました。そして、そのような自己超越的な境地・洞察知の妙味を人々に伝え、その境地へと導くために、種々の教説を残しました。身体は滅しても、いのちの本質（アートマン）は永遠不滅であり、死後新たな身体を得て別の生を送ることになりますが、それは輪廻転生のサイクルにとどまる道筋なので、哲人たちは輪廻転生を乗り越える解脱の道を探し求めました。梵我一如の洞察知を完成させることが、解脱への道であると考えました。

他方、仏教は「無我」を説くと言われます。ウパニシャッドでは「私は万物と一体である」と、自己（我）をいわば全宇宙まで広げた形で肯定しているのに対して、仏教は道筋としては正反対で、「無我」の原語アナートマンが示すように、アートマンを否定した形であり（否定辞「ア（ン）」にアートマンを足して「アナートマン」）、自分への囚われをはなれて「無我」あるいは「空」の境地をめざしました。

しかし昔から、ウパニシャッドと仏教の思想は、深いところでつながっていると多くの研究者が指摘しています。どちらも、欲望と苦悩に縛られた輪廻の生存から解放された解脱の境地をめざしています。実際、代表的なウパニシャッドの哲人の一人は、アートマンについて、いかなる言葉・概念でも捉えきれないものだと主張しており、ある意味では仏教の空に限りなく近い教えを説いています。また原始仏教でも「自己」は常に否定されているわけではなく、むしろ「自己」を大切にしなさいという教えも多くあります。さらに大乗仏教では、「大いなる我」を打ち出して、大我を開けば永久の楽が訪れるとの思想も現れます。「真の自分を探せ」とは禅が求める究極の課題です。

まことに大きなテーマですが、とても大切な問題です。皆さんと一緒に考えたいと思います。

14　仏教漢文講読：『維摩経』をよむ（2）　〈2コマ〉

山口弘江（やまぐちひろえ）
駒澤大学仏教学部准教授

［日　　時］5月19日（日）13:30～15:00，15:20～16:50
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］中村元「現代語訳大乗仏典3『維摩経』『勝鬘経』」（東京書籍）2003年
高橋尚夫、西野翠（訳）『梵文和訳維摩経』（春秋社）2011年
［受 講 料］3,400円
（早割 2,400円　※5月12日までに受講料を納入された場合）

15　仏教漢文講読：『維摩経』をよむ（3）　〈2コマ〉

山口弘江（やまぐちひろえ）
駒澤大学仏教学部准教授

［日　　時］9月29日（日）13:30～15:00，15:20～16:50
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］中村元「現代語訳大乗仏典3『維摩経』『勝鬘経』」（東京書籍）2003年
高橋尚夫、西野翠（訳）『梵文和訳維摩経』（春秋社）2011年
［受 講 料］3,400円
（早割 2,400円　※9月22日までに受講料を納入された場合）

『維摩経（ゆいまぎょう）』は、漢訳では3巻と短い内容ながらも、東アジアの仏教思想および文化に大きな影響を与えた代表的な大乗経典の一つとされます。『法華経』などのように特定の宗派の聖典とされることはありませんでしたが、だからこそ『維摩経』は信仰や教義の垣根を超えて、多くの人々に愛読されました。また、近代以降は東アジアだけでなく、世界中の仏教学者が『維摩経』に着目し研究を行ったことで、欧米語なども含め、数多くの現代語訳が刊行されるに至っています。1999年には、これまで残っていないとされていたインド古典語のサンスクリット語によるテキストが日本の大正大学の調査隊によってチベットのポタラ宮で発見されました。この大発見によって、『維摩経』の研究は近年さらなる進展を遂げています。

お経の主人公は、仏ではなく維摩詰（ゆいまきつ）という大富豪です。在家菩薩として一目置かれる存在の維摩詰が、ある時、病気となります。その知らせを受け、仏は弟子を見舞いに遣わそうとするのですが、ここから物語は大きく展開していきます。全14章の中には、読者を惹きつけてやまない名場面が随所に設けられています。深淵な教理を巧みな譬喩で表現するレトリック、維摩詰が仏の十大弟子をはじめ、弥勒や文殊といった大菩薩をやりこめる見せ場、方丈という小さな病室に無限の空間を見せる演出など、さまざまな手法をこらして大乗経典の醍醐味を我々に示しているのです。

本講義では、『維摩経』の諸訳の中で最も広く読まれた鳩摩羅什訳『維摩詰所説経』をテキストに、本文を講読します。2018年度に講読した序章にあたる「仏国品」の内容をふまえつつ、5月の講座では経の第2章にあたる「方便品」、9月の講座では第3章にあたる「弟子品」を受講者の皆さんとともに輪読する予定です。

受講を通じて、みなさんが『維摩経』の世界を原典に基づきみずから味わい、仏教漢文の基礎を身に着けることを目的としています。

＊2018年度の講義に続く内容ですが、今年度からはじめて受講される場合や連続で（2）（3）を受講できない場合でも理解できるよう説明しますので、新規の方もご心配なくお申し込みください。
＊受講にあたって特別な予習は必要ありませんので、これまであまり仏典に触れたことがない方や、歴史や漢文・漢字に興味のある中高生の受講も歓迎します。
＊当日は講読がメインとなりますので、漢和辞典を持参してください。新たに購入する場合は、『全訳　漢辞海』第四版（三省堂、2016年）を推奨します。

16　やさしい英語で『歎異抄』を読む　〈4コマ〉

田中（たなか）ケネス
武蔵野大学名誉教授

［日　　時］7月6日(日) 13:30～15:00，15:20～16:50
7月7日(日) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布（講師が用意する）
Dennis Hirota（翻訳）*Tannisho: A Primer.* Ryukoku University
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※6月29日までに受講料を納入された場合）

『歎異抄』は浄土真宗の宗門を超え注目され、幅広い層の人々の間で人気を呼んでいる日本仏教を代表する書物であります。それが、海外でも同じであり、すでに数ケ国語に訳されていて、英語でも10冊以上の訳があるのです。

英語を通して読めば、また別の感覚と理解が生まれてくる可能性があります。私は目下、東京で三つの「英語を通しての仏教講座」を受け持っていますが、講座は大変人気があり、合計170人が受講しています。受講生からは、英語を通して仏教を学ぶと分かりやすく、また、今まで味わったことがない感覚を覚えるという意見をよく聞きます。また、若い年齢層の受講生が目立ちます。

では、『歎異抄』からのいくつかの文章がどのように訳されているかを紹介しましょう。

1）　第2章、「いづれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし。」は、Since I am one for whom any practice is difficult to accomplish, at all events hell is decidedly my home!

2）　第3章「善人なほもって往生をとぐ、いはんや悪人をや。」Even a good person attains birth; how much more so the evil person!

3）　第5章「そのゆへは、一切の有情はみなもて世々世々の父母兄弟なり。」The reason is, all living things – every one of them – are my parents or brothers and sisters of many lives in many states of existence.

本講座では、『歎異抄』の一章から最初のいくつかの章を、講読して行く予定です。英語の文章の詳しい説明をした後、講師がその意味を真宗教学と大乗仏教の観点から日本語で詳しく説明いたします。また、現代人が直面する実存的と社会的な課題を『歎異抄』の叡智の視点から考えることにも努めることにしたいと思っています。

教科書は、Dennis Hirota（翻訳）*Tannisho: A Primer.* Ryukoku Universityを使用します。しかし、この本は絶版になっていますので、購入できません。したがって、講師が受講生の分を用意いたしますので、受講生は購入する必要はありません。

英語能力に自信がなくても、遠慮なく参加されることを歓迎いたします。

17　ひたむきな帰依、狂おしい帰依 ―インドの宗教詩を味わう―　〈4コマ〉

やましたひろし
山下博司
東北大学名誉教授
公益財団法人中村元東方研究所連携研究員

［日　　時］７月27日（土）13:30～15:00，15:20～16:50
７月28日（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］橋本泰元、宮本久義、山下博司『ヒンドゥー教の事典』（東京堂出版）2005年
山下博司『ヒンドゥー教―インドという謎―』（講談社）2004年
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※７月20日までに受講料を納入された場合）

貧しい信者の帰依のまこと、神と合一できないもどかしさと哀しみ、身を焦がす恋心にも似た神への一途な想いなどを切々と綴ったインドの信仰のうたを味わいます。

「バクティ」と呼ばれるヒンドゥー教徒の帰依の感情は、主と崇める人格神に対する、敢然たる自己犠牲をも厭わないひたむきな想いに発しています。絶対者へのこうした信仰態度は7世紀頃の南インドにはじめて現れます。ぞれぞれアールヴァール、ナーヤナールと称される、ヴィシュヌやシヴァを最高神と仰ぐ吟遊詩人たちがあいついで登場し、寺々や聖なる場所場所をめぐり歩いて神への熱烈な愛を珠玉の歌に託しました。12世紀になると、南インドのカルナータカ地方に、極端なまでに純粋な信仰を日常生活に息づかせようとする集団も現れています。彼らのなかには低身分の者も少なくなかったのですが、いまでも人々から篤い尊崇を集め、聖者として敬われ慕われています。すぐれた女性詩人が多いのも大きな特徴のひとつです。

講義では、写真や画像などを多用して時代や地域の背景を紐解きながら、原詩（カンナダ語、タミル語など）を平易な日本語に翻案したものを一つ一つお示しし、これまで日本に紹介されることのほとんどなかった宗教詩を読むことをつうじて、南インド中世のヒンドゥー教徒の内面世界にせまり、浸ります。

簡単な日本語の訳詩で味わいますので、インドの言語についての知識はまったく必要としません。日本的感性のまま向き合っていただければ結構です。

18　日本の近代仏教の幕開け　〈4コマ〉

みのわけんりょう
蓑輪顕量
東京大学大学院人文社会系研究科　教授

［日　　時］８月３日（土）13:30～15:00，15:20～16:50
８月４日（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※７月27日までに受講料を納入された場合）

廃仏棄釈はどのような経緯で始まり、実際にどのような成果を上げたのであろうか。最近の研究では、修験の世界には大きな影響を与えたが、全体としては実はそうでもなかったのではないかという見解が出てきている。また、明治期の日本仏教は、海外の研究と接することでも、あらたな展開を起こした。また、学問の場として、大学が設置されることによって、大学でも仏教が就学されるようになったことは特記すべきことかもしれない。なかでも東京大学ができて、仏教の講義がなされるようになったことは大きな意味を持つものであったと考えられる。その最初は原坦山であったが、重要な人物は村上専精である。

また、日本人の海外に対する関心も高まり、初めてインドに仏跡を参拝した僧侶の方の記録も残されている。スリランカからやってきた僧侶が与えた影響も存在する。そのような近代初頭の日本仏教の動きについて考察を進める。この講義では

１　廃仏棄釈と三条教則
２　東京大学と仏教学
３　インド参拝の日本人僧侶たち
４　海外の僧侶と日本人僧侶の交流

の４つのテーマで講義をしたい。

19　仏教とイスラム教　その遠くて近い宗教関係　〈4コマ〉

保坂俊司（ほさかしゅんじ）
中央大学大学院教授

［日　　時］9月4日(水) 13:30～15:00，15:20～16:50
9月5日(木) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］保坂俊司『グローバル時代の宗教と情報』(北樹出版) 2018年
［受 講 料］5,800円
(早割 4,800円　※8月28日までに受講料を納入された場合)

無慈悲なテロやＩＳの蛮行で、一層イスラム教への日本人のイメージは、悪くなってしまいました。

また、自らを絶対視し、他者の生命を軽んずるかのようなイスラムという宗教への恐怖あるいは嫌悪が、世界中に広がっていることも事実です。

確かに現在の国際社会の混乱の背景には、イスラム独自の教えに起因することが多々ありますが、しかし、それは、決してイスラムそのものではありません。それは戦前の日本が「国体神道」による「聖戦」を唱えて戦争を行ったからと言って、それが神道そのものである、と言えないのと同様な理屈です。このように言うとあるいはイスラム贔屓のそしりを受けるかもしれませんが、しかし、このような理解も実は、今回の一部ではありますが、過激派イスラムの暴走の背景と通じるところがあるのです。

いずれにしても、一部のイスラムをそのように極端な解釈にはしらせた状況を理解する必要があるのです。

そして、それこそ現在の国際社会の一般論に欠けているところです。もちろんイスラム側にもそれは言えますが。

いずれにしろ、両者の溝は憎悪と無理解で深まるばかりです。そしてそこには、他者への尊敬と生命を尊重する心がかけているといえます。

というわけで公正に、そして広くかつ温かいこころでイスラムを知ることが、現在社会に求められています。とはいえ、実は、イスラムそのものを直接知ることは、日本人には特に難しいのです。というのも、日本人が慣れ親しんでいる仏教や神道とイスラムは構造的にかなり異なるからです。

そこで、日本人が、イスラムの言説や文化を理解するには、ちょっと回り道ですが、仏教との比較が効果的です。

というわけで、本講座ではイスラムを理解するために、仏教との比較を行うという方法を取ります。

詳しくは、拙著『イスラムの拡大と格差社会』プレジデント社、2015年をご参照ください。

20　人の「たま」を祀る神社の系譜 ―天満宮・東照宮から靖国神社まで　〈4コマ〉

加藤（かとう）みち子
中村元東方研究所
専任研究員
学習院大学講師

［日　　時］9月21日（土）13:30～15:00，15:20～16:50
9月22日（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］加藤みち子『「かみ」は出会って発展する』（北樹出版）2011年
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※9月14日までに受講料を納入された場合）

日本には、菅原道真を祀る「天満宮」や、徳川家康を祀る「日光東照宮」など、ご祭神として、生前は人であった方を祀る神社がたくさんあります。しかし本来、古神道においては、人の「たま」を神社に祀るということはありませんでした。本講義では、なぜ、どのような経緯で天満宮や東照宮が祀られるようになったのか、その思想の変遷と、歴史的背景についてみていきます。

第一回　古代における、人の「たま」と神の「たま」の区別

最初に、神道の基本的な考え方としての「たま」についてご説明するとともに、人の「たま」と神の「たま」がどのように区別されていたのかをご紹介していきます。

第二回　御霊信仰と御霊会

ここでは、菅原道真や、平将門、崇徳上皇など、いわゆる日本の三大怨霊が登場します。人の死霊のなかで、特別に祀られるようになった「祟りがみ」の由来についてご紹介します。

第三回　英雄神の登場―怨霊ではない徳川家康や豊臣秀吉はなぜ神になったか？

徳川家康や豊臣秀吉が神社で祀られるようになった理由は、道真や将門とは、まったく異なる理由からでした。その背景には、吉田神道の理論が控えていました。ここでは、天下人が神社で祀られる「英雄神」というケースについて、歴史的背景と思想的背景からご紹介します。

第四回　靖国神社と明治神宮―明治時代における「人神」の量産

最後に、近代における人を神に祀ることで有名な神社、靖国神社や明治神宮の来歴につてご紹介し、現在につながる、日本の人と神の関係についてまとめます。

21　仏教聖典へのいざない　〈4コマ〉

釈（しゃく）　悟震（ごしん）
中村元記念館東洋思想文化研究所副所長
文学博士
公益財団法人中村元東方研究所副総括研究員
スリランカ国立ベーラデニヤ大学客員研究員

［日　　時］10月20日（日）13:30～15:00，15:20～16:50
10月21日（月）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］購入が必要：中村元『仏教経典散策』（角川文庫）2018年、（東京書籍）1979年
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※10月13日までに受講料を納入された場合）

【講義の内容】

「八万大蔵経」とも言われるほど膨大な仏教の経典。どうして仏教はこれほど経典が多いのか。その理由や真の意味はどこにあるのか。またわたくしどもは、どれだけの経典の内容や意味を理解しているのであるだろうか、等々多くの疑念に対する紐を解くと同時に、われわれの日常生活文化に馴染んでいる仏教をより身近に感じさせ、摩訶不思議なる心の安らぎを覚えさせる講義であって欲しいと願っております。

そこで本講義では、長い間、もっとも難解で親しみやすくない仏教の聖典をわたくしどもが親しみやすくなるように日頃、心血を注いだ中村元博士の数多くの珠玉の教説により『スッタニパータ（経集）』、『ダンマパダ（法句経）』、『般若心経』、『華厳経』、『法華経』、『維摩経』、『勝鬘経』、『父母恩重経』、『観音経』、『金剛経』など最初期の仏教聖典、大乗仏教の聖典、密教の聖典中においても、古からもっとも著名な仏教聖典を、説話やエピソードを交え、つずられた『仏教経典散策』を主要テキストとして、より分かりやすく、なおかつ担当講師独自の目線において仏教聖典への思惟方法を踏まえて、そのいざないを昨年度につづいて順次講じてまいります。

【本講義進捗の件について】

膨大な仏教経典のなかで、仏教伝来約二千有余年という長い歴史を有する日本仏教において親しまれつつ、地球上何処の民族も有し得ない日本人特有の文化並びに人間形成を成し遂げた本テキストに挙げられた仏教経典の数々に関わる深層の真相を全地球的観点、とりわけ仏教発祥の地、インドおよび漢字文化圏である、中国、朝鮮半島、日本に至るまでを概観するのも、本講義の特徴とも云うべきである由、本年度においても本テキストに挙げられている経典を順次継続的に進捗されることを念頭において企画された講座であることを申し上げます。

22　菩薩考　〈4コマ〉

わたなべしょうご
渡辺 章 悟
東洋大学教授
文学博士

［日　　時］2020年３月26日（木）13:30～15:00，15:20～16:50
３月27日（金）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］渡辺章悟『般若経の真理』（春秋社）2019年
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※３月19日までに受講料を納入された場合）

本講座は仏教の本質を菩薩信仰を通して理解することを目的とする。

仏教の礼拝対象を大別すると、仏・菩薩・天・明王の四つに分けられるが、このうち菩薩は仏教徒にとって最も親しみやすいものであろう。それは衆生の願いに応じて生み出された尊格という性質を持つからである。また、歴史的な祖師などもこれに入るだろう。

これら菩薩は大乗仏教では様々な姿で登場するが、実は大乗以前にも菩薩信仰はあった。たとえば部派仏教時代の「ジャータカ」（本生譚）は、釈尊の前世の修行の姿を菩薩と呼び、釈尊は他者に対するさまざまな慈悲行（菩薩行）を繰り返しおこなったとされ、このことから今世で特別に仏陀になったことを強調した。

それが大乗仏教運動の勃興にともない、この世界の他にも多様な世界を想定し、そこで釈迦仏と同じような仏が登場して説法するという、他方仏国土の思想がより鮮明に意識され、さらに過去仏から現在仏、未来仏という時間的展開に伴う多仏の思想がうまれた。

さらに仏の前の修行者である菩薩が、それぞれの仏に伴って個性的に語られ、多くの役割をもって衆生（生きとし生けるもの）の中に登場する。それを具体的に述べると、燃燈菩薩から、弥勒、文殊、観音、普賢、文殊、法蔵、地蔵から、わが国の八幡大菩薩など、インドから東南アジア、東アジアへと仏教が展開するに及んで多様な菩薩を生んでいくのである。これら諸仏・諸菩薩は、それぞれの経典の中に明確な役割を持って語られ、さらに民間信仰として文学や美術作品の中に描かれてゆく。

大乗仏教はこのような多様な菩薩をなぜ語るようになったのか、その歴史的展開を図像資料などを用いつつ、実際の文献で確認しながら考えてゆくつもりである。

本講座は、以下のようなテーマを４回に渡って講義する予定です。どなたでも判るような講義を目指していますので、奮ってご参加下さい。

１．大乗以前の菩薩　―燃燈仏と釈迦菩薩
２．初期大乗の菩薩　―過去仏信仰と未来仏信仰の菩薩たち
３．様々な菩薩の登場　―大乗の諸菩薩たち
４．日本人の考えた菩薩　―八幡神と祖師の菩薩

中村元記念館文化講座〈入会金・継続事務費　不要〉

中村元記念館の文化講座が始まります。
現代社会のなかでどのように生きていくのか、東洋の文化に改めて向き合ってみませんか。
受講料のみで参加できます。お気軽にご参加ください。

中村元記念館文化講座　講義内容

1　観想行入門　「心を知ろう」　〈6回〉

清水谷善圭（しみずたにぜんけい）
清水寺貫主
島根県仏教会会長

［日　　時］第４木曜日　10:30～12:00
（4/25、5/23、6/27、7/25、10/24、11/28）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］9,000円
［そ の 他］座禅をしますので動きやすい服装でお越しください。

私達凡夫が悩み、苦しみ、悲しむのは自分自身の心を知らず、心に従属させられているからです。喜びと平安を得て幸せを掴む為には心の主人（即ち自分自身の心を知り、心を制御・コントロールする力をつける）とならなければなりません。この講座は止観（坐禅）を通して、自分自身の心を観、心の動きを観察して心を制御する力を養います。一緒に心の主人となりましょう。

第１講座　この世が苦である原因

第２講座　心の無知・執着を知る

第３講座　止観とは

第４講座　心を観察する準備
1．環境を整える
2．呼吸を整える
3．姿勢を整える

第５講座　心を観察する
1．心の騒ぎを止める
2．騒ぐ心の源を観察する

第６講座　心の主人となろう
1．集中力・制御力をつける
2．智慧の完成まで

2　アジアの風土と民族音楽～音楽で辿るシルクロード仏跡の旅　〈6回〉

瀬古康雄（せこやすお）
シタール奏者
しまねガムラン主宰
島根県立大学短期大学部
非常勤講師

［日　　時］第４土曜日　13:30～15:00
（5/25、6/22、8/24、9/28、10/26、11/23）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］参考書は特に定めませんが、参考文献を適宜提示するとともに、授業で使用したＣＤやＤＶＤを閲覧可能にします。
［受 講 料］9,000円

アジア各国の伝統的な民族音楽や舞踊はそれぞれの国の自然や文化に深く根ざしているように感じられます。インド、中国、そして日本、それぞれの音楽は、その国の人々に世代を超えて愛され、いわば、「自己の存在了解の仕方」とでも言うべき「風土性」を持っています。この講座は、民族音楽は初めてという人のための入門講座で、インド音楽を中心にして、現地で収録したビデオや熊野大社で行われた庭火祭などの日本公演のビデオを鑑賞します。今年度は、昨年度に引き続いて仏教伝来の跡を辿り、シルクロードの伝統音楽を取り上げ、シルクロード各地の仏跡の今昔についても考えてみたいと思います。

3　中国地方の神楽と儀式の世界　〈2コマ〉

なかのあいか
中野秋鹿
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員

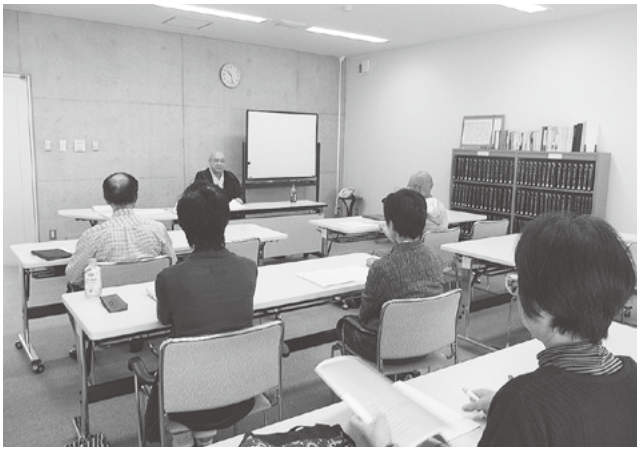
［日　　時］ 9月1日(日) 13:30～15:00，15:20～16:50
［テキスト］ レジュメ配布
［受 講 料］ 3,000円

実は中国地方が、全国的にも類を見ない神楽の多様性を誇る地域だということをご存知でしょうか？

八岐大蛇が火を噴く壮麗かつダイナミックな舞から、とてつもなく長い祭文をとうとうと唱え続ける素朴な神楽まで、魅力的な神楽が中国地方の各地で伝承されています。また、激しい舞による神懸りや、巨大な藁蛇を用いた荒神祭祀など、神道・仏教・修験道とその土地の風習が混じり合った、中世的な信仰の世界を今に伝える儀式も、数多く遺されています。

本講座では、33年に1度の荒神祭などの貴重な映像をまじえて、中国地方の神楽の幅広く奥深い世界を紹介・解説します。実際に見に行きたいという方には、最新の神楽情報もお伝えします。

中国地方の人々が古来より、神楽に託してきた祈りのかたちを感じてください。



2019年度　東方学院松江校・中村元記念館文化講座　年間スケジュール

2019年 4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1 月		1 水		1 土		1 月		1 木		1 日	【文化】中野※
2 火		2 木		2 日		2 火		2 金		2 月	
3 水		3 金		3 月		3 水		3 土	【集中】蓑輪②③	3 火	
4 木		4 土		4 火		4 木	【定期】三桐②	4 日	【集中】蓑輪①②	4 水	【集中】保坂②③
5 金		5 日		5 水		5 金	【定期】齊藤②	5 月		5 木	【集中】保坂①②
6 土		6 月		6 木	【定期】三桐②	6 土	【集中】 田中ケネス②③	6 火		6 金	
7 日		7 火		7 金	【定期】齊藤②	7 日	【集中】 田中ケネス①②	7 水		7 土	
8 月		8 水	【定期】藤岡①	8 土	【定期】藤島① 【定期】的野①	8 月		8 木		8 日	
9 火		9 木	【定期】三桐②	9 日		9 火	【定期】島田②	9 金		9 月	
10 水		10 金		10 月		10 水	【定期】藤岡①	10 土	【定期】笠原②	10 火	
11 木		11 土	【定期】藤島① 【定期】的野①	11 火	【定期】島田②	11 木	【定期】三桐②	11 日		11 水	
12 金		12 日		12 水	【定期】藤岡①	12 金		12 月		12 木	
13 土	ガイダンス 14:00～	13 月		13 木	【定期】三桐②	13 土	【定期】藤島① 【定期】的野①	13 火		13 金	
14 日	【集中】丸井②③	14 火	【定期】島田②	14 金		14 日		14 水		14 土	
15 月	【集中】丸井①②	15 水		15 土	【定期】岡① 【定期】笠原②	15 月		15 木		15 日	
16 火		16 木	【定期】三桐② 【定期】清水谷善暁③	16 日	【定期】横山①	16 火		16 金		16 月	
17 水		17 金	【定期】齊藤②	17 月		17 水		17 土		17 火	
18 木	【定期】三桐② 【定期】清水谷善暁③	18 土	【定期】岡①	18 火		18 木	【定期】三桐② 【定期】清水谷善暁③	18 日		18 水	
19 金	【定期】齊藤②	19 日	【定期】横山① 【集中】山口②③	19 水		19 金	【定期】齊藤②	19 月		19 木	
20 土	【定期】岡①	20 月		20 木	【定期】三桐② 【定期】清水谷善暁③	20 土	【定期】岡① 【定期】笠原②	20 火		20 金	
21 日	【定期】横山①	21 火		21 金	【定期】齊藤②	21 日	【定期】横山①	21 水		21 土	【集中】加藤②③
22 月		22 水		22 土	【定期】藤島① 【文化】瀬古②	22 月		22 木		22 日	【集中】加藤①②
23 火		23 木	【文化】清水谷善圭① 【定期】三桐②	23 日		23 火		23 金		23 月	
24 水		24 金		24 月		24 水		24 土	【文化】瀬古②	24 火	
25 木	【文化】清水谷善圭① 【定期】三桐②	25 土	【定期】藤島① 【定期】笠原② 【文化】瀬古②	25 火		25 木	【文化】清水谷善圭① 【定期】三桐②	25 日		25 水	
26 金		26 日		26 水		26 金		26 月		26 木	
27 土	【定期】藤島① 【定期】笠原②	27 月		27 木	【文化】清水谷善圭① 【定期】三桐②	27 土	【集中】山下②③	27 火		27 金	
28 日		28 火		28 金		28 日	【集中】山下①②	28 水		28 土	【文化】瀬古②
29 月		29 水		29 土	【定期】笠原②	29 月		29 木		29 日	【集中】山口②③
30 火		30 木	【定期】三桐②	30 日		30 火		30 金		30 月	
		31 金				31 水		31 土			

【定期】・【文化】講義時間：①10：30～12：00　②13：30～15：00　③15：30～17：00
【集中】講義時間：①10：30～12：00　②13：30～15：00　③15：20～16：50
※中野先生による９月１日の文化講座は 13：30～15：00，15：20～16：50です。

10月		11月		12月		2020年 1月		2月		3月	
1 火		1 金	【定期】齊藤②	1 日		1 水		1 土		1 日	
2 水		2 土		2 月		2 木		2 日		2 月	
3 木	【定期】三桐②	3 日		3 火		3 金		3 月		3 火	
4 金	【定期】齊藤②	4 月		4 水		4 土		4 火		4 水	
5 土	【定期】藤島①	5 火		5 木	【定期】三桐②	5 日		5 水		5 木	
6 日		6 水		6 金	【定期】齊藤②	6 月		6 木		6 金	
7 月		7 木	【定期】三桐②	7 土	【定期】藤島①	7 火		7 金		7 土	
8 火	【定期】島田②	8 金		8 日		8 水		8 土		8 日	
9 水	【定期】藤岡①	9 土	【定期】藤島① 【定期】的野①	9 月		9 木		9 日		9 月	
10 木	【定期】三桐②	10 日		10 火	【定期】島田②	10 金		10 月		10 火	
11 金		11 月		11 水	【定期】藤岡①	11 土		11 火		11 水	
12 土	【定期】的野①	12 火	【定期】島田②	12 木		12 日		12 水		12 木	
13 日		13 水	【定期】藤岡①	13 金		13 月		13 木		13 金	
14 月		14 木	【定期】三桐②	14 土	【定期】藤島① 【定期】的野①	14 火		14 金		14 土	
15 火		15 金	【定期】齊藤②	15 日		15 水		15 土		15 日	
16 水		16 土	【定期】岡①	16 月		16 木		16 日		16 月	
17 木	【定期】三桐② 【定期】清水谷善暁③	17 日	【定期】横山①	17 火		17 金		17 月		17 火	
18 金	【定期】齊藤②	18 月		18 水		18 土		18 火		18 水	
19 土	中村元東洋思想 文化賞授賞式	19 火		19 木		19 日		19 水		19 木	
20 日	【定期】横山① 【集中】釈②③	20 水		20 金	【定期】齊藤②	20 月		20 木		20 金	
21 月	【集中】釈①②	21 木	【定期】三桐② 【定期】清水谷善暁③	21 土	【定期】岡① 【定期】岡﨑②	21 火		21 金		21 土	
22 火		22 金		22 日		22 水		22 土	【定期】岡﨑②	22 日	
23 水		23 土	【定期】藤島① 【定期】岡﨑② 【文化】瀬古②	23 月		23 木		23 日		23 月	
24 木	【文化】清水谷善圭① 【定期】三桐②	24 日		24 火		24 金		24 月		24 火	
25 金		25 月		25 水		25 土	【定期】岡﨑②	25 火		25 水	
26 土	【定期】藤島① 【定期】岡﨑② 【文化】瀬古②	26 火		26 木		26 日		26 水		26 木	【集中】渡辺②③
27 日		27 水		27 金		27 月		27 木		27 金	【集中】渡辺①②
28 月		28 木	【文化】清水谷善圭① 【集中】三桐②	28 土		28 火		28 金		28 土	【定期】岡﨑②
29 火		29 金		29 日		29 水		29 土		29 日	
30 水		30 土		30 月		30 木				30 月	
31 木	【定期】三桐②			31 火		31 金				31 火	

各講座へのお申込みのご案内

●入会金・継続事務費・早割特典について

1　東方学院松江校講座（研究会員へのご登録が必要です）

●入会金・継続事務費について

①これまでに入会金をお支払いただいたことがない方（これまでに定期講義･集中講義を受けたことがない方）
→　入会金10,000円（友の会割引 9,000円）をお支払いください。

②これまでに入会金をお支払いただいたことがある方（これまでに定期講義･集中講義を受けたことがある方）
→　継続事務費5,000円（友の会割引 4,500円）をお支払いください。
※各講義の受講料は講義一覧（６・７ページ）でご確認ください。

●早割料金特典について

＊各講義開講日の１週間前（早割締切日）までに**受講料を納入**いただくと早割料金が適用されます。
（申込書の提出だけでは適用されません。）

＊早割料金は研究会員登録後に摘要されます。（受講料のみの入金では適用されません）

2　中村元記念館文化講座（研究会員へのご登録は必要ありません）

●**入会金・継続事務費は不要です。**受講料のみお支払いください。

●早割料金特典はございません。　※各講義の受講料は講義一覧（７ページ）でご確認ください。

●受講にあたっての留意事項

●講義によってはテキストのご購入が別途必要な場合があります。各講義内容のページをご確認ください。

●納入された受講料は原則としてお返しできません。ただし、次の場合に限りお返しいたします。
- 受講申込みをされた講座が、講師や当校のやむを得ない事情により実施できなかった場合。
- 受講申込みをされた講座が休講になり、補講を実施できなかった場合の休講分の受講料。

●「中村元記念館友の会」会員の方は、入会金または継続事務費が１割引となります。詳しくは32ページをご覧ください。

●原則として受講のお申込みは１か月前までにお願いします。それ以降にお申込みされた場合、テキスト・会場準備などの都合で受講をお断りする場合がございます。予めご了承ください。

●開講日１か月前までに受講申込み者がいない講義は開講いたしません。

●受講申込みについて

●以下のいずれかの方法でお申込みください。（お電話ではお申込みいただけません。）

●郵送またはFAXの場合の申込手続きは、ご入金された時点で完了いたします。

◆受付窓口でのお申込み

受講申込書（29ページ）にご記入のうえ、入会金と受講料を添えてご提出ください。
（窓口での受付時間　10:00～17:30　休館日(月曜日)を除く）

◆郵送またはFAXでのお申込み

１．**受講申込書**（29ページ）にご記入のうえ、下記まで送付ください。
〈郵送の場合〉〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060　中村元記念館
〈FAXの場合〉FAX番号 0852-76-9693

２．入会金あるいは継続事務費と受講料を、**申込日から1週間以内**に下記の口座までお振込みください。
- 振込手数料はご負担ください。
- 振込のご依頼人の名前が、申込書と同じ名前であることをご確認ください。
- 振込の場合、領収書は発行いたしません。振込の際に発行される控えを大切に保管してください。

《振込先》**■ゆうちょ銀行**　**※手引きに添付の払込票にて下記振込口座宛にご入金ください。**
口座番号　０１３７０－８－９１２２８
加入者名　中村元記念館

■山陰合同銀行　松江駅前支店（店番号004）
口座番号　普通３６９４６２８
口 座 名　特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所

●体験受講について

東方学院松江校の各定期講義、文化講座（清水谷先生、瀬古先生の講義）の第１回目、第２回目のいずれかの講義に限り、体験受講が可能です。入会金や継続事務費は不要です。講義に必要なテキストや資料などは貸与いたします。体験受講料1,500円（１コマ90分）、要事前申込。体験後、正式に受講申し込みをされる場合、受講料は体験受講料を差し引いた額となります。

●その他

●2019年10月１日以降、消費税改定に伴い料金の変更を予定しております。詳細は追ってホームページ等でお知らせします。お支払いの際はご注意ください。

●いただいた個人情報は当ＮＰＯ法人の業務のためのみに使用し、ご本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません。

2019年度　東方学院松江校・中村元記念館文化講座受講申込書

◆ 太枠内をご記入ください。

申込日	平成　　年　　月　　日	会員申込区分（該当欄に☑を入れてください） ※過去に松江校研究会員になったことのある方は継続扱いとなります。 ※友の会会員は１割引となります。詳しくは32ページをご覧ください。	
フリガナ			
氏　　名	男・女	☐新規　入 会 金　10,000円	☐新規（友の会会員）　入 会 金　9,000円
生年月日	年　　月　　日	☐継続　継続事務費　5,000円	☐継続（友の会会員）　継続事務費　4,500円
住　　所	〒　　－		
電話番号	－　　－	携帯電話	－　　－
FAX番号	－　　－	E-mail	

◆ 受講を希望する講座の太枠内に○をご記入ください。

	番号	講義名	講師名	○印	受講料	早割料金	早割締切日	事務局記入欄 受領日	担当	データ
定期	1	前期：仏教は何を説いているのでしょうか	三桐　慈海		17,800円	16,800円	4月11日			
	2	後期：仏教経典解説	三桐　慈海		13,000円	12,000円	9月26日			
	3	中村元『ブッダの生涯』講読	清水谷善曉		8,200円	7,200円	4月11日			
	4	『無量寿経』を読む	齊藤　舜健		15,400円	14,400円	4月12日			
	5	“医療”と『大丈夫論』～「いのち」の現場から考える“大丈夫”という物語～	岡　　宏		8,200円	7,200円	4月13日			
	6	ラフカディオ・ハーンの異界と宗教観	横山　純子		8,200円	7,200円	4月14日			
	7	歴史を彩った人びと　東アジア篇 ―その１―	藤島　建樹		15,400円	14,400円	4月20日			
	8	キリスト教世界の歴史と思想	笠原　愛古		8,200円	7,200円	4月20日			
	9	出雲学概論	藤岡　大拙		8,200円	7,200円	5月1日			
	10	仏像鑑賞講座―美しさの秘密	的野　克之		8,200円	7,200円	5月4日			
	11	宮沢賢治の俳句を読む	島田　隆輔		8,200円	7,200円	5月7日			
	12	能海寛のチベット仏教探検への道	岡﨑　秀紀		8,200円	7,200円	10月19日			
集中	13	インド思想における自己観を考える―自分を孤立させないために	丸井　　浩		5,800円	4,800円	4月7日			
	14	仏教漢文講読：『維摩経』をよむ（2）	山口　弘江		3,400円	2,400円	5月12日			
	15	仏教漢文講読：『維摩経』をよむ（3）	山口　弘江		3,400円	2,400円	9月22日			
	16	やさしい英語で『歎異抄』を読む	田中ケネス		5,800円	4,800円	6月29日			
	17	ひたむきな帰依、狂おしい帰依―インドの宗教詩を味わう―	山下　博司		5,800円	4,800円	7月20日			
	18	日本の近代仏教の幕開け	蓑輪　顕量		5,800円	4,800円	7月27日			
	19	仏教とイスラム教　その遠くて近い宗教関係	保坂　俊司		5,800円	4,800円	8月28日			
	20	人の「たま」を祀る神社の系譜―天満宮・東照宮から靖国神社まで	加藤みち子		5,800円	4,800円	9月14日			
	21	仏教聖典へのいざない	釈　　悟震		5,800円	4,800円	10月13日			
	22	菩薩考	渡辺　章悟		5,800円	4,800円	2020年3月19日			
文化	1	観想行入門　「心を知ろう」	清水谷善圭		9,000円	-	-			
	2	アジアの風土と民族音楽～音楽で辿るシルクロード仏跡の旅	瀬古　康雄		9,000円	-	-			
	3	中国地方の神楽と儀式の世界	中野　秋鹿		3,000円	-	-			

（ア）	受講料合計			円	
（イ）いずれかをお選びください	入　会　金（新規の方）			10,000円	
	入　会　金（新規の方・友の会会員）			9,000円	
	継続事務費（継続の方）			5,000円	
	継続事務費（継続の方・友の会会員）			4,500円	
（ア）＋（イ）	お支払額合計			円	

《送付先》

〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060　中村元記念館

FAX：0852-76-9693

受　付	データ	備　考
／	／	

※申込用紙を郵送・FAXで送られる場合、申込み手続きはご入金された時点で完了いたします。
　申込日から１週間以内にご入金ください。

キリトリ線

●中村元記念館ボランティアサポーター募集

中村元記念館では、当館の事業にご協力いただける「ボランティアサポーター」を募集中です。ご都合のいい時間に、ご自分の持ち味や興味を活かしてボランティアしてみませんか。

詳しくは中村元記念館までお気軽にお問い合わせください。

〈活動内容の例〉

・蔵書整理
・イベント運営
・付属研修施設の環境整備
・チラシ等発送業務
・語学（翻訳/通訳）

●中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集

中村元記念館東洋思想文化研究所の研究員を募集いたします。当研究所は、中村元記念館に所蔵されている中村元博士の約34,000冊の蔵書・資料を活用して、博士が開拓された学問の道をさらに深く探究し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的とします。

〈活動内容〉

・隔年発行予定の当館の研究紀要に研究発表をする。
・可能であれば、関連する学会で発表をする。
・人文科学分野の研究を振興する。

〈応募資格〉

・人文科学分野の修士号を有する方、または修士号と同等の資格（研究業績等）を有する方。
・中村元記念館東洋思想文化研究所の理念に賛同し、中村元記念館を支え、発展させていく熱意のある方。

〈応募方法〉

以下の書類を中村元記念館まで郵送してください。採用に当たっては所長による面接を行います。

・履歴書（功績書またはそれに準じるものを添付する）
・研究課題書
・推薦書

〈応募締切〉

毎年度　２月末日

〈待遇〉

・当館所蔵の図書・資料を管理者の同意のもとご活用いただけます。
・研究助成金等は当分の間支給いたしません。
・研究員に対して会費等の徴収をすることはありません。

中村元記念館東洋思想文化研究所

所　　長	前　田　専　學
副 所 長	釈　　悟　震
主任研究員	岡　田　真　水
主　　事	清水谷　善　曉
主 事 補	笠　原　愛　古

Nakamura Hajime Memorial Hall

中村元 記念館 友の会 入会のご案内

中村元記念館では、東洋思想の巨星 中村 元（なかむら はじめ）博士の偉業を伝え、
34,000冊を超える博士の蔵書の調査・整理、収蔵品の管理、東方学院松江校運営など、
幅広い活動を行っております。当館の活動をご理解、ご支援いただき、
また、会員同士の親睦を図る友の会に入会いただきますようご案内いたします。

年会費 年間２千円（毎年3月末日が有効期限となります）

会員特典
- 「中村元記念館友の会」会員証を発行します。
- 中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。
- 東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。
- 記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。
- 提携施設の入場料が割引料金になります。
- 友の会限定交流会のご案内をいたします。

入会のお申込み方法 次ページの払込取扱票（入会申込書）に、住所、氏名、電話番号、金額をご記入の上、点線に沿って切り取り、お近くの郵便局にお払込みください。（年会費：2,000円）
会費ご入金日より会員となります。会員継続は自動更新となります。
退会を希望される際は事務局までご連絡ください。

◆ 中村元記念館友の会 規約

（名称）第1条 この会員制度は、中村元記念館友の会（以下「友の会」）という。**（事務局）第2条** 友の会事務局は、中村元記念館に置く。**（目的）第3条** 友の会は、館の活動を支援して、会員相互の親睦を図ることを目的とする。**（会員）第4条** 会員とは、前条の目的に賛同し、この規約を承諾のうえ会費を納入するものをいう。2.会員には会員証を発行する。3.会員資格は、4月1日から翌年3月31日までとし、会員より退会の申し出がない限り自動的に更新する。**（年会費）第5条** 会費は、年間２千円とし、次のいずれかの方法により納入する。（1）事務局に直接持参（2）指定口座に振込**（会員の特典）第6条** 友の会会員は、次の特典を受けることが出来る。（1）「中村元記念館友の会」会員証を発行します。（2）中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。（3）東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。（4）記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。（5）提携施設の入場料が割引料金になります。（6）友の会限定交流会のご案内をいたします。**（会員証の紛失、盗難）第7条** 会員は、会員証の紛失や盗難にあった場合、ただちに事務局に届け出て、会員証の再発行を受ける。2.会員証が名義人以外に利用され、会員または友の会に損害を生じさせた場合は、名義人がその損害の責を負う。**（届出事項の変更等）第8条** 会員は、氏名、住所等に変更が生じた場合には、すみやかに事務局に届け出る。**（退会届）第9条** 会員は、退会する場合はその旨を事務局に申し出る。**（規約の変更）第10条** 友の会は、必要があるときは、この規約を変更することができるものとし、変更する場合は、会員に通知する。（附則） この規約は平成27年4月1日から適用する。

アクセス

飛行機でお越しの方

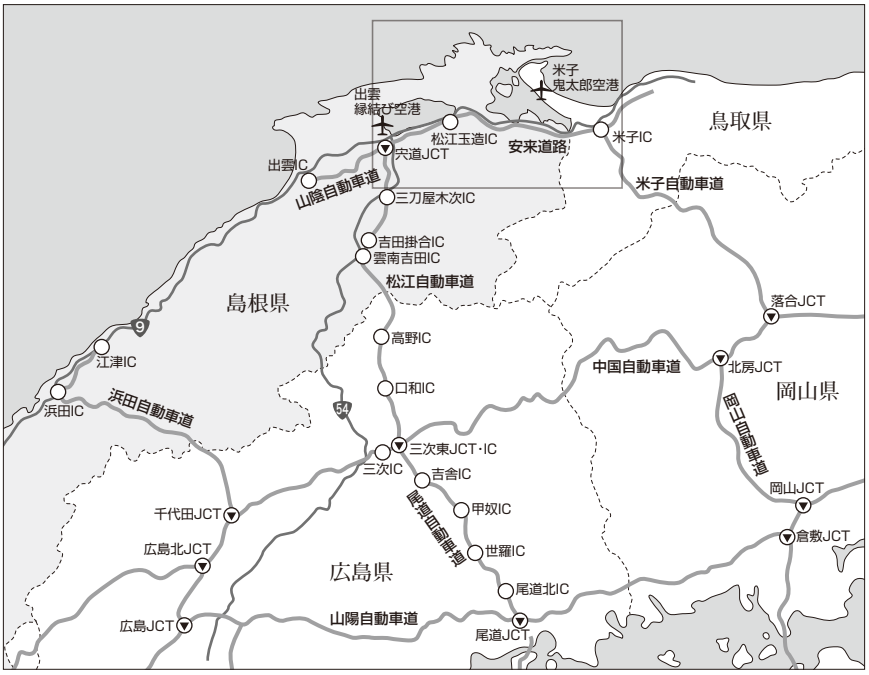
【米子空港から】車で約15分
【出雲空港から】車で約50分

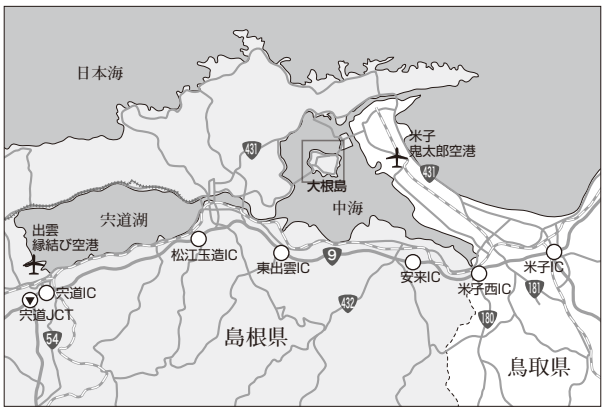
車でお越しの方

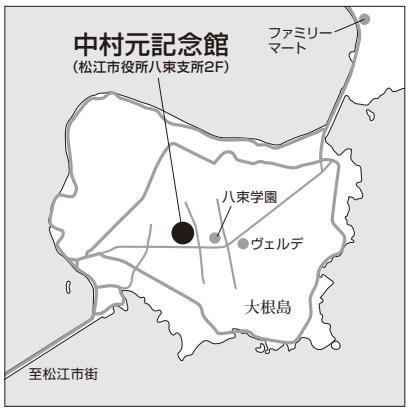
【広 島 か ら】車で3時間（中国自動車道三次I.C.経由）
【岡 山 か ら】車で2時間15分（岡山自動車道・中国自動車道・米子自動車道）
【松江駅から】車で約25分
【境港駅から】車で約10分
【米子駅から】車で約35分

バスでお越しの方

【松江駅から】
・松江市営バス「八束町」行で約50分、「八束支所・中村元記念館前」下車
・松江境港シャトルバス約25分「由志園」下車のち徒歩約10分
【境港駅から】
・八束コミュニティバス約20分「八束町・由志園入口」下車のち徒歩約3分
・松江境港シャトルバス約15分、「由志園」下車のち徒歩約10分







Nakamura Hajime
Memorial Hall
नाकामुरा हाजीमे स्मारक सभागृह

2019年２月21日　発行

発行所　特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所
〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060番地　松江市八束支所2F
TEL 0852-76-9593/FAX 0852-76-9693
info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp
http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/